

2016

11月号

つながり×ひろがる

いちのせき市民活動センター



- 2 | 二言三言
- 4 | 団体紹介
- 5 地域紹介
- 6 企業紹介
- 7 センターの〇〇
- 一人ひとりが自己実現できる地域へ
- ー関市民オーケストラ (一関)
- 藤沢 第8区自治会 (藤沢)
- 株式会社 デクノボンズ (大東)
- センター独自調査!おまんじゅう編

フタコト×ミコト 第30回 二言三言 86/121,411

一人ひとりが自己実現できる地域へ

対談者 藤源寺/地域イノベーター 佐藤良規さん 聞き手 いちのせき市民活動センター センター長 小野寺浩樹

お寺マルシェの開催と地域との関係づくり

【小野寺】藤源寺の住職であり地域イノベーター※である佐藤良規さんは、「お寺マルシェ」や「禅ヨガ」などさまざまな取り組みを行っていますが、その活動を始めたきっかけは何ですか?

【佐藤】前からやってみたいという思いはあったんですが、そんな中、釜石で震災に遭い九死に一生を得る体験をしたんです。そこで「人生は自分の生きたいように生きなければもったいない」と思い、とにかく"自分は何をしたら本当に楽しいか"を突き詰めて考えるようになったんです。そう考えた結果、「自分が何か行動を起こしたりすることで、誰かが喜ぶことが一番楽しい」ということに気づいたんです。

【小野寺】それが今のさまざまな活動につながっているんですね。活動をしていく中で、何か新しい考えのようなものは生まれていますか?



佐藤 良規 さん藤源寺/地域イノベーな

【佐藤】そうですね。今一関では「マルシェ」が聞きなれた言葉になりましたが、僕たちがお寺マルシェを始めた2年前は「マルシェって何ですか?」という状況でした。そのくらい急激に高まってきた文化なんですよね。僕たちがお寺マルシェを始めた頃は本当に手探りでしたが、だんだんと一緒に活動してきた仲間たちが各地に散らばってそれぞれ活動を始めたり、主催したり。その同時多発的な広まり方が、マルシェ文化を急激に高めた一つのきっかけだったんじゃないかと

僕は驚きながら喜んでいます。

【小野寺】お寺マルシェをきっかけに出会った人たちが、「私たちも何かやってみよう」となったのは、すごく大きなきっかけですよね。その活動について、地域の方々の反応はいかがでしたか?



2015年に開催したお寺マルシェの様子

【佐藤】そこは結構難しかったです。マルシェ自体はフランス語で、英語ではマーケットと言います。つまり、「市」のことなんですよね。地域を動かしているのは 70 歳以上の方が多いので、マルシェという言葉自体にもピンとこないし、そういう方をどう巻き込んでいくのかというところが難しかったです。

お寺を会場にする良さは、地域の人たちを自動的に 当事者にさせるということです。お寺は地域の人みん なのお寺だと思っているわけですから。それは、お寺 というものの"見えざる値打ち"というか、価値を感 じましたね。幸運だったのは、地域でお花見会の予定 がありその日にマルシェをぶつけられたことですね。 お花見とマルシェを同じ場所で同時開催するという 精神的に無理のない状態でやってみたら、若い人がお 寺や地域に大勢訪れたことで地元の人が驚いたし喜 んだんです。その驚きが自信になったんですよね。そ して2年目もぜひ一緒にやりましょうと言ってもら えました。

【小野寺】素晴らしいですね。お寺はどちらかという

と非日常的な空間ですが、そこでイベントをすること で近づきやすくなりますし、非日常的な空間を日常的 な空間に近づけるという効果もありますよね。

もともとお寺は寺子屋をはじめ人が集う場でしたが、今はお葬式やご法事とかに行く場所になってしまっていて、地域から少し離れた存在になってしまっているかと思いますが、それをもう一回近づけたというところで良規さんの発想は大きいですよね。

暗黙のプレッシャーからの解放と自己実現

【小野寺】良規さんは、住職さんになる前は別のことをしたり海外に行ったりしていましたが、その頃は自身のお寺ないし地域をどんな風に見ていましたか?

【佐藤】正直、狭いしつまらないという思いで育ってきました。学生の頃は進学するにつれて、もっと広いところに出たいという気持ちで進路を選んできていたので。最初から地元を愛していたということはありませんでしたし、きっと、お寺を継がなきゃという暗黙のプレッシャーに反発していたのだと思います。



佐藤さんが住職をしている曹洞宗 藤源寺

【小野寺】たぶん、田舎の子は誰しもが暗黙のプレッシャーや手狭さを感じて育ってきていると思います。 実家の家業を継ぐとか、土地を守るとか。反発心はありながらも、どこかしら諦めの気持ちもありながら成長してきたと思うんですよ。でも、暗黙のプレッシャーからの解放はすごく大事だと思っていて、やりたいことを自分の地域で勇気をもってやってみたり参加してみることが、暗黙のプレッシャーからの解放になっていくんじゃないかと思います。

【佐藤】そうですね。田舎の根本的な課題の一つだと思うのですが、就職することが唯一無二の選択肢になっているところがありますよね。でも、田舎にはおもしろいものがたくさんあるし、素材は山ほどあると思っています。田舎でしかできない商品をつくれば、売れるという可能性は十分にあると思いますよ。就職すること以外に、小商いとして色々な人が自分のやりた

いこと・好きなこと・できることを暮らしにし、それで誰かを喜ばせられればすごいことですよ。

【小野寺】田舎では、どこかに就職することだけが安全という考え方がありますよね。僕が大事だと思うのは「自己実現ができているかどうか」です。自分のしたいことが生活の中でできているか、その生活を一人ひとりが目指すべきだと思うし、それができる地域になるべきだと思っています。



【佐藤】幸運にも自分がそういう仕事を見つけられればそれでいいと思うし。だけども、そうじゃないケースももちろん多いだろうし。そもそも、そういう生き方が可能だと思ってないかもしれませんね。

【小野寺】田舎にくればくるほど職業の選択肢は少なくなるし、自分がやりたい仕事が100%できるわけでもない。でも、その中で少しでも自分の興味がある仕事に触れられているかどうかを見極めてもらいたいし、そこに辿り着くことが自己実現の第一歩だろうなと思っています。

【佐藤】例えば、僕はお葬式をした日がハッピーに終わることもありますよ。僕がお葬式をすることで檀家さんが「安心して故人を見送れた」と感じられれば、「悲しかったけどお葬式してよかった」と思います。何も就職できた、仕事ができたということだけがハッピーなのではなく、自分の務めを果たせた、自分のしたいことができたということで感じるハッピーもあるし、毎日そんなハッピーを感じて生きられるんだということを、たくさんの人と体験していきたいなと思います。

※本来、イノベーターとは「革新者」という意味ですが、佐藤さんは「自分達のまちで楽しく暮らす新しい仕掛けをしていくこと・ひと」 という意味合いで使っています。

|基本情報

【藤源寺】

住所:〒029-3521

一関市藤沢町保呂羽上野平132

電話:0191-63-2385

一関市民オーケストラ

団体 紹介



第 15 回演奏会(2015 年 10 月) の様子

~基本情報~

◆代 表:齋藤禎隆さん

◆連絡先:佐々木真澄さん(事務局長)

◆電 話:090-9420-7170 (佐々木さん携帯)

igspace HP: http://ichiorch8.wixsite.com/home

市民から愛されるオーケストラを目指して

結成23年 一関に音楽の輪を広げる

月曜日の夜になると萩荘市民センターから聴こえてくる美しい管弦楽曲の音色。一関市内外から管楽器・弦楽器奏者が集まり、毎週切磋琢磨しながら腕を磨き、一関市にオーケストラの輪を広めようと活動する「一関市民オーケストラ」さんをご存じでしょうか?

楽団は 1993 年に一関のヴァイオリン教室に通う生徒で結成した「ハウス・ムジーク」という楽団が元団体で、その後管楽器も加わり 2000 年に「一関室内管弦楽団」に改名、その翌年に現在の団体名になりました。当時宮城教育大学教授だった渡部勝彦さんを音楽監督兼常任指揮者に迎え、現在は 20 代から 80 代までの約30 名の団員で活動を展開しています。今回は、楽団の結成当時から活動に携わっている事務局・総務の北村売子さんと、事務局長の佐々木真澄さんに活動についてお話を伺いました。

一年間の成果発表「第 16 回演奏会」

同団体は、市民音楽祭や芸能祭などの地域行事への参加、学校や市民センターでのコンサート開催など地域に根差した活動を行っています。また、市内病院でのコンサートは 2003 年に初開催以降も不定期に行い、2015 年には老人介護施設でもアンサンブル(少人数での演奏)を実施。好評を得て、今年 12 月にも演奏会の依頼が入っているそうです。

このほか、日頃の練習の集大成として、毎年秋に開催している演奏会があります。今年は11月27日(日)に第16回目となる演奏会を予定しており、ベートーヴェンの「ピアノ協奏曲第5番変ホ長調作品73皇帝」とラフマニノフの「交響曲第2番ホ短調作品27」の

2曲を演奏。2つ目の曲は県内の他の楽団が挑戦する も途中で断念するほど難易度が高く、団員の皆さんは 一年前から猛練習を重ねてきました。

「15年前に行った第1回演奏会の時は技術的に未熟でしたが、今では規模が大きい曲を手掛けられるようになるまでに成長しました。団員の実力は少しずつ、確実に上がっています」と佐々木さん。何度舞台に出ても本番は緊張するそうですが、皆で心を一つにし、楽曲を奏でられるのがオーケストラの醍醐味。佐々木さんは「演奏を聴いて一人でも多くの市民がオーケストラの楽しさを感じてくれれば」と演奏にかける想いを語ります。

地域での演奏会を増やし、音楽をさらに身近に

オーケストラをするにはたくさんの楽器と奏者が必要なため、団員だけでは足りないことがしばしばあり、その都度ほかの楽団から賛助として奏者をお呼びしています。「一関には弦楽器の先生がいないため特に弦楽器奏者が少ないです。私たちの演奏を聴いて、演奏に興味を持つ方が少しずつでも増えれば」と北村さん。佐々木さんは今後の抱負として「今後は病院や介護施設だけでなく地域での小さな演奏会を増やし、少しず

つ一関市民オーケス トラの名前を広めて いきたい」と意気込 みを語っていただき ました。



10月10日に東山で行われた全体練習の様子です渡部さん指揮の下、真剣な表情で演奏に臨んでいます

地域 紹介



自治会長 和田一雄さん

~基本情報~

- ◆自治会長:和田一雄さん
- ◆70世帯186人が暮らす第8区自治会では、人口減少が進む中でも一人ひとりの負担を少なく、参加しやすい自治会 運営により楽しく集い交流できる場を大切にしています。

一人ひとりの負担を減らし参加しやすい自治会活動に

みんなが動きやすいように整理された組織体制

藤沢町のほぼ中央に位置する第8区自治会は、豊かな自然を活かした国営農地開発事業なども行われている農業条件に恵まれた中山間地域です。今回は、自治会長の和田一雄さんと産業部長の小野勝實さんにお話を伺いました。

取材の初めに自治会活動の資料を見せていただき、まず目に留まったのは組織の執行体制と電話番号表です。各専門部に関わる人や団体、連絡先が一目でわかるようになっていました。「昔からの伝統で、班ごとに整理した電話番号表も会員の総意によって作られているので、行事の際などの連絡調整もしやすく重宝していますね。また、1つの班の世帯数を最大でも5世帯までにすることで、班長の負担を減らせています」と話す和田さん。小さいまとまりの中で回すことで、隣近所の把握やコミュニケーションもしやすいそうです。

笑顔が集うダルマサロン

同自治会が10年以上、大切に続けている活動に「ダルマサロン」があります。5月と8月を除き、毎月第2 木曜日に地域のお年寄りが自治会館に集まり、体操やお世話役の方々の手料理を楽しんでいます。

昔、同自治会南側の木ノ中部落には藤沢町内でも有名だった演芸会があり、町内の芸達者な人たちが集まって芸を披露していました。今は演芸会は開かれていませんが、その時の賑わいや楽しかった思い出を残そうと、当時ステージ幕に描かれていたダルマの絵からサロンの名前を「ダルマサロン」にしました。自治会外からも楽器の演奏が得意な人などをゲストに呼んだりして毎月たくさんの人が集まります。サロン運営の工夫について和田さんは「女性部を中心に行いますが、役員が必ず実行部隊になるのではなく、地域の中で動

ける人・やりたい人に女性部からサロン運営を委託するような形にして、役員になることで何もかも任されるのではという不安を解消しています。やりたい人が集まるので、料理の材料なども持ち寄って、お世話役の皆さんも楽しんで活動できているようです」と語ります。

コミュニティの将来を見据えて

交流や組織運営を動きやすいようにしているおかげ で花壇づくりやリサイクル活動などの環境整備にも一 丸となって取り組むことができ、花壇は県や町から数 多くの賞を受賞しています。「地域の皆が積極的に参加 してくれる姿を見ると自治会があってよかったと感じ るね」と笑顔で活動記録を読み返す小野さん。和田さ んも「夏祭りにも地域から出た人が子どもを連れて参 加して賑わっています。先に立つ人の苦労を心配する 声もあるが、参加があるということはニーズがあると いうこと。住民が楽しめる活動は大切にしていきたい です。8 区は黄海川と並行に走る県道に分断されるの で、昔は北と南に集会所が分かれてコミュニケーショ ンが難しい時期がありましたが、人口減少を見据えて 自治会館を一本化してまとまりました。今後を考える と、1 つの自治会だけでなく、西口地区(6・7・8 区) としての取り組みも必要になってくるだろうし、環境 を活かして産業に結びついたものになっていければと 思います」と今後の展望を語っていただきました。



ダルマサロンの様子

株式会社 デクノボンズ

企業 紹介



代表取締役 小野寺 伸吾さん

~基本情報~

- ◆代表取締役:小野寺 伸吾さん
- ◆連 絡 先:〒029-0521

一関市大東町渋民字和田沢 117-1

- ◆電 話:0191-75-3096 ◆F A X:0191-75-2113
- ◆U R L: http://koubouziabura.jp

ふるさとの昔ながらの食文化を後世につなぐ

姿を消した油屋と復活させたナタネの生産

大東町は昔から畑で栽培したナタネで自家製油を作る家が多く、集落ごとに歩いて行ける範囲で油屋があったのだとか。ナタネ(菜種)はアブラナ科アブラナ属に属する数種類の植物の総称で、日本では江戸時代から貴重な燃料源として使用され、その後、採油用を中心に栽培が行われてきました。

最盛期の昭和 32 年には 286, 200 t の生産があり、絞った油粕は良質な肥料となるため捨てるところがなく、ナタネが成長すると、私たちに春の訪れを知らせてくれる菜の花となり鮮やかな黄色の花を咲かせます。

現在は、観賞用や旬食材としての菜の花が目立ちますが、株式会社デクノボンズでは昔ながらの工程で純地元産のナタネ油を製造・販売しているのです。

「ずいぶん前の話になりますが、大東町で一時期ナタネの生産がゼロになったことがあるんですよ。せっかく地域に資源はあるのに残念なことです。何とかナタネ油を復活させ地元を盛り上げたい。そんなことを地域の人たちと考え、まずは菜種の生産から始めました」と語る小野寺さん。ピーク時は100名を超える方々がその生産に携わり、地域の活性化を目指しました。「現在は生産者が少なくなりましたが、今年も約10 tのナタネが地元生産されています」と続けます。

出会いが生んだ工房地あぶら

同社取締役の小野寺さんは、県外の大学を卒業後、「いつかは地元に帰ろう」そんな思いを募らせながらもそのまま県外で就職し、平成16年、父親の農業を継ぐためリターン。「すでに家庭もあったので、農業だけでの収入に不安がありました」と語る小野寺さん。その頃、旧大東町で"四季成り"という品種のイチゴ栽培研修があり「これは需要がありそうだ」と着目。さっそくその研修に参加し、北部農業技術開発センターに足を運ぶようになったのが運命の出会いとなります。

「いろいろな方が出入りする開発センターなので、ナタネ油の現状や地域の課題など学びや刺激がたくさんありました」と振り返る小野寺さん。「当時ナタネ生産の復活はできましたが、油絞りは県外に委託。『地元のものは地元で仕上げたい』そんな思いの有志で油搾りの工房をつくろうという話が持ち上がり『若いんだから、やってみないか?』と言われ、当初は農閑期の作業として油搾りを引き受けました」と続けます。

平成15年、有志5名で任意団体「工房地あぶら」を 立ち上げたのは、小野寺さん25歳の時でした。

その後、需要が高まり、ナタネの生産数も増えたため、年中の専属作業となり、平成21年4月に法人化し株式会社デクノボンズを設立しました。

消費者も生産者も地域のみんなを笑顔に

「ナタネの栽培で難しいところは『連作できない』こと。なので、一度ナタネを栽培したところでは翌年からは麦などアブラナ科以外の作物を植えて 4 年輪作します。そうすることでナタネは病気にかからなくなり品質の良いものとなります。でも、それでは生産する農家さんが大変ですよね。ナタネの収穫ができないわけですから。そこで、今私が挑戦しているのが『ヒマワリ』です」少年のように小野寺さんの笑顔が弾けます。「ヒマワリはアブラナ科ではありませんし、油の原料にも適します。そして、菜の花のように色鮮やかな黄色の花を咲かせます。同じ畑を利用することで生産者の苦労も減りますし、いたるところで花を楽しむ

ことができます」と続けます。 「今はまだ試験段階ですが、 近未来的にヒマワリ油を実現 し誰もが笑顔になれるように したい」と最後に力強く語っ て頂きました。



室根山に映える黄色の菜の花は、古き時代から私たちに食材の恵みを与えてくれています。

センター独自調査!おまんじゅう編





~今月の特集~

一関市では昔からの餅文化が有名ですが、実は地域にはおいしいお饅頭もたくさんあるんです!

もしかすると、地域によっておもしろいお饅頭文化が見つかるかも?ということで調査してみました。今回はその調査結果を一挙に発表します。

スタッフが各地域の方に「地元の方がお使い物に使うお饅頭は何ですか?」という質問をさせていただきました。その結果、各地域で一番声が多かったお饅頭を一地域につき一つずつご紹介します。聞き取りでは「〇〇地域ならこのお饅頭でしょ!」と地元のお饅頭愛を熱く語っていただいた方もいらっしゃいましたし、一方では「現在は製造されていないけど今でも味を覚えている」という、販売が止まっても地域で愛され続けているお饅頭の話もありました。なお、この調査はいちのせき市民活動センター調べになります。ご協力いただいた皆様ありがとうございました。

【松栄堂さんのお饅頭】



販売店:松栄堂(本店) 住 所:地主町 3-36

電話:0191-23-5008

営業時間: 9 時~18 時(日) 8 時 30 分~18 時(月~土)

定休日:年中無休

【田舎まんじゅう】



販売店:東山軒 住 所: 東山町長坂字町 318 電 話:0191-47-2240 営業時間:9時~19時 定休日:不定休

【白あんぱん】



販売店:千葉本店

住 所:室根町折壁 1-15

電 話:0191-64-2040 営業時間:7時30分~19時

定休日:年中無休

【しもまんじゅう】



販売店:まんじゅう屋 住 所:大東町沖田 八円町 22

電 話:0191-74-2525 営業時間:7時~19時 定休日:元旦以外営業

【金時まんぢゅう】



販売店:(有)湖月堂

住 所:川崎町薄衣字法道地

21-10

話:0191-43-2191

営業時間:8時30分~

売り切れまで

定休日: 水曜日

【ふじまんじゅう】



販売店:吉禎菓子舗 住 所: 藤沢町藤沢字町 131 電 話:0191-63-2239 営業時間:6時30分~19時 定休日:なし

かつては複数のお菓子屋があった花泉(今は 3軒)。そのせいか票が分散し、1位に輝いたのは饅頭 ではなく「菓子処おざわ」さんの「くるみおこし」という

ゆべしでした!しかしながら現在は製造されていないとのことで残念ながらご紹介することができません。続くお饅頭としては「茶まんじゅう」「モリウシ饅頭」「こうせんまんじゅう」など、こちらも残念ながら今は閉店してしまったお店の懐かしい饅頭の名前が挙げられました。ちなみに現在の花泉で人気のお使い物としては、SASEI菓子店さんの洋菓子のようです。花泉では饅頭文化が薄かったのかもしれませんね。

【のまんじゅう】



干厩では、地元の皆さんが口を揃えて言う人気のお饅頭があるのですが、残念ながら販売店から掲載許可をいただけませんでした。どんなお饅頭か気になる方は、直接センターまでお問い合わせくださいね。



関

さくらなみき企画展 Siwaza project I

一関市で活動しているアスペルガー障が いのアーティスト「慧風(えふう)」さんの作品 を展示します。美術館のために描き下しされ た作品を中心に展示するほか、最終日の 14 時からはギャラリートークも開催します。 たくさんの方のご来館をお待ちしております。 ******* 【期間】平成28年10月11日(火)~11月27日(日)

【場所】さくらなみき自閉症美術館 ※月曜・祝日定休

【料金】入館料無料

【問合】場所と同じ

【電話】0191-48-3622

花泉

花と泉の公園 スイーツバイキング

花と泉の公園では、施設のお花を眺めな がらお菓子を味わえるスイーツバイキング を開催します。美しい花々に囲まれながら メルヘンチックにスイーツを楽しみましょう。 ご家族お誘いあわせでお越しください。

******* 【期間】平成28年11月12日(土)~13日(日)

【時間】11時~14時

【場所】レストラン

【料金】大人1,480円、子ども840円、3歳以下無料

【問合】花と泉の公園

【電話】0191-82-4066

千厩

第6回かやぶき祭り

築300年を超えるかやぶき民家「村上 家」で、餅つきや昔話、地場産品の販売の ほか、市内外で活動する若手アーティスト による音楽祭も開催します。先着25名で 地域のかやぶき屋根を見学して回るバス ツアーも行います(※要事前申込)。

******* 【日時】平成28年11月13日(日)9時~16時 【場所】岩手県指定有形文化財 村上家

(千厩町小梨字不動65) 【問合】かやぶき民家を残す会

【電話】0191-24-4401

-関

まちエネ大学 関スクール

地域資源を活かした地域課題の解決に つながる再エネ事業化を支援する人材育 成プログラムです。全5回の講座で、どなた でもご参加できます。第2回目は、「省エネ を活用した地域課題の解決を学ぶ」をテ ーマに下記日程で行います。

【日時】平成28年11月15日(火)18時~21時

【場所】なのはなプラザ3階 大会議室

【受講料】3,000円 (テキスト代) 【問合】一関市民パワー発電所事業化検討地域協議会

【電話】090-6222-8634(菅原)

-関

みちのくワークショップ フォーラム 201<u>6</u>

ワークショップの達人たちの技術を体感 し、より有用な手法を身につけよう!東北 を中心に集まった8名の講師による8つの ワークの中から受講したいワークを選び、 11 月12日(土)までにお申し込みくださ い。詳細は問い合わせ先まで。

【日時】平成28年11月26日(土)受付8時30分~

【場所】なのはなプラザ

【参加料】3,000円 ほか

【問合】いちのせき市民活動センター

【電話】0191-26-6400

.関

関市民オーケストラ 第16回演奏会

ピアノ奏者に及川浩治さんをお招きし、 オーケストラの珠玉の名曲、ベートーヴェン の「ピアノ協奏曲第5番変ホ長調 作品 73 皇帝」とラフマニノフの「交響曲第2番ホ短 調 作品 27」の2曲を演奏します。団員が 一年間練習してきた成果をご覧ください。 ******* 【日時】平成28年11月27日(日)13時30分開場 【場所】一関文化センター大ホール 【料金】(前売り)一般1,000円 高校生以下400円 【問合】一関市民オーケストラ

【電話】090-9420-7170(佐々木)

-関

まちづくりコーディネーター 養成講座

地域づくり活動における基本的な考え方 や進め方、知識を身につけて、まちづくりコ ーディネーターになろう!①まちづくりコー ディネーター概論②話し合いの仕方③規 約・事業計画と資金調達④情報発信のス スメの全4回講座です。

******* 【期日】①終了②終了③12月10日(土) ④平成29年1月14日(土)

【場所】なのはなプラザ4階 共同会議室 【参加料】2,000円(全4回分)

【問合】0191-26-6400(いちのせき市民活動センター)

.関

馬の堆肥さしあげます

畑の土づくりに適しているとされる馬の堆 肥を家庭菜園等で使ってみませんか。お がくず堆肥なので、匂いも少なく、扱いも容 易です。牧場まで取りに来てくださる方に は無料でさしあげています(市内であれば 2トントラック1台5千円で運搬の対応可)。

【場所】パカポコクラブ(佐々木牧場) (中里字大平山 23-76)

※「山桜桃の湯」さん近く

【問合】0191-48-4461/

080-1841-1800 (佐々木)

市内

電動アシストレンタサイクル

電動アシスト機能がついているブリジスト ンの自転車「BIKKE」(ビッケ)を下記の要 領でお貸ししています。花泉、藤沢、東山 町に貸出拠点がございます。イベントなど 一関市内全域の配達回収もご相談に応じ ますのでお気軽にお問い合わせください。 ******* 【料金】--日1,200円、3時間700円 【利用時間】平日9時から17時まで 【問合】いちのせきニューツーリズム協議会

今月の表紙



花泉に今年2月にオープンしたギャラリーとクラフ トの店「S and N」さんのお洒落な外観です。蔵を改 装したお店にはオーナーさんや近隣の手作り作家 さんの素敵な作品が並びます。当センターホーム ページ内のブログにも詳細情報を掲載しております のでぜひご覧ください。

Q & A あなたの「知りたい」にスタッフが答えます







会議を始める前には、「何のために会議を開くのか(目的)」、「何を決め たいのか(目標)」、「やり方とスケジュール」、「メンバーと役割分担」、「ルー ル」を決める会議設計を行いましょう。これを明確にし参加者全員で共有す ることで、安心して話し合いに集中していただく場のデザインになります。

【電話】0191-82-3111

せんまやサテライト

発行■いちのせき市民活動センター 〒021-0881 一関市大町 4-29 なのはなプラザ4F ℡0191-26-6400 Fax0191-26-6415 〒029-0803 千厩町千厩字町 149 120191-48-3735 Fax0191-48-3736

